＜川越子どもサポート新聞＞NO.57

ひと、ホット、ほっと！

令和3年12月
川越市教育委員会地域教育支援課

学校支援や休日の活動が少しずつ始まりました

１０月から１２月にかけ各地区のサポート委員会では、学校支援・地域の特色を生かした活動が展開されています。学校への支援活動としては、ミシン学習の補助、校外学習の安全見守り、ロードレース大会や持久走大会の安全確保等が地域の方々の協力のもとに行われ、子どもたちの豊かな成長につながっています。さらに、休日に収穫体験活動や人数制限を設けてイベントも実施されるようになってきました。

反面、例年実施されているフェスティバル（子どもまつり）等を中止せざるをえない地区も多くあります。今後の子どもサポート活動の内容を話し合っているところです。

第３回川越市子どもサポート本部会議が開催されました

今年度第３回目の川越市子どもサポート本部会議が開催されました。

会議では今年度の子どもサポートコンクール「小江戸見っけ隊」作品展に応募した作品の審査と「川越子どもサポート発表会」に向けての話し合いを行いました。

今年度は絵画・作文・新聞を合わせて７６８点の応募があり、この中から小学校低学年、小学校高学年、中学生、それぞれの部門ごとに優秀作品として合計３４点を選出しました。

今年度も川越の良さや地域の特色を発見した作品が多くみられました。なお、この審査で入賞された作品のうち、ベスト見っけ賞（金賞）の７人の発表と表彰は、「川越子どもサポート発表会」の席で行われます。

【川越子どもサポート発表会】

１　日　時　令和４年２月５日（土）
　　９：１５受付　　９：３０開会（１１：４５閉会）

２　場　所　やまぶき会館ホール　（川越市郭町１－１８－１）

３　内　容　①　子どもサポート活動報告　　１２地区の活動紹介及び２地区の活動発表
　　②　子どもサポートコンクール「ベスト見っけ賞（金賞）」の発表・表彰
　　③　講評

４　その他　・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、入場者を制限させていただきます。一般の方の入場はできませんのでご了承ください。

子どもサポートコンクール「小江戸見っけ隊」作品展のお知らせ

今年度も市内小・中学校の児童・生徒が自分たちの町である川越や、住んでいる地域のすばらしさ及び地域の方々とのふれあいを通して感じたことなどを作文・絵画・新聞に表現してくれました。３つの部門で応募のあった全作品７６８点を次のとおり展示いたします。

１　期日　　令和４年２月１６日（水）～２０日（日）

２　時間　　９：００～１７：００
　　（２０日のみ１５：００までですので
　　１４：３０までの入場をお願いします。）

３　会場　　川越市立美術館
　　１階市民ギャラリー（川越市郭町２－３０－１）

「学校・家庭・地域の連携」に関わる研修会 オンライン形式で実施

１１月２４日(水）に、オンライン形式で、研修会を実施しました。

事前に申し込んでいただいた学校の教職員と子どもサポート委員、及びＣＳ（ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙ）の委員が、参加しました。

講師は、ＣＳマイスターの井上尚子さんでした。井上さんは、東京都杉並区の小学校で、学校運営協議会の会長職務代理者を務めるとともに、地域学校協働本部でアドバイザーの役職も担っています。

研修会の内容は、「コミュニティ・スクールとは」から始まり、学校運営協議会の役割や進め方を学校からの視点と委員からの視点で、具体例を示していただきました。参加者からは、次のような感想がありました。

☆実践を交えた話を聞くことができ、参考になった。

☆コーディネーターの大切さが良く分かりました。

☆立ち上げの苦労はあるが、学校にとってメリットがある。

☆立場の違いを多様性という強みに変えて連携していくことが重要と感じた。

学校支援活動・地域の特色を生かした活動の様子

霞ケ関地区　学習支援やイベントを行っています

２学期から、学習支援の活動が増えてきました。

ミシン学習の補助

家庭科の時間で、ミシンを使った学習の支援をしました。５・６年生の児童に喜んでもらえました。

総合学習「霞ケ関の話を聞く会」

地域の方々に、霞ケ関地区の昔の小学校の写真を見せながら、昔の生活の様子を含めて、様々な出来事があったことを教えてもらった子どもたちは、目を輝かせていました。また、子どもたちからは、地域の方に質問をたくさんしていました。

彫刻刀の学習

図工の授業で、彫刻刀を初めて使う４年生に、使い方を教えてくれるのは、公民館で活動している木彫クラブの方々です。

もう、１０年間以上続いている学校支援で、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止になりましたが、今年度は、復活しました。

子どもイベント「バルーンアート」

今年度から、子ども中心のイベントを続けていくことになり、子どもたちが元気に参加できるものはないかと考え、実現したのが「バルーンアート」です。色とりどりのバルーンをひねったり、組み合わせたりしながら、思い思いの形を作って親子で楽しみました。

福原地区　あいさつ運動

毎月２回、小中学校の校門の前で、登校してくる子供たちを見守りながら、挨拶をしています。大人も子どもも笑顔で、一日の始まりです。

親子芋ほり体験

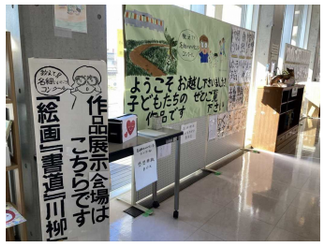
１１月１３日（土）福原小学校１・２年生の希望者が参加して実施しました。２７名ずつ２グループが時間をつけて 、密にならないように配慮しながらサポート委員が見守りました。

大きなさつまいもが、どんどん収穫されて、子どもたちは笑顔で大満足したようでした。

名細地区　「教えて！名細のいいところコンクール」を実施

今年度からの新しい事業として、作品展覧会を実施しました。毎年川越市で行っている小江戸見っけ隊作品展覧会の名細地区バージョンをやってみようという試みです。

内容は、絵画・書道・川柳として、名細地区への愛着や地元愛のあふれる作品が集まりました。絵画２６点、書道１４点、川柳８４点は、１１月１２日から１１月３０日まで、名細公民館の通路に掲示しました。



「子どもサポート講演会」を実施

１１月１４日（日）の１０時から名細市民センターの多目的室で、講演会を実施しました。「子どものこころと体を守る性教育～地域で・家庭で・学校で～」と題して、埼玉医科大学産婦人科医師の高橋先生が、講話をしてくれました。

高橋先生の性教育シリーズは、学校教育の場でも喜ばれています。

中央地区　「わがまちをカメラが覗く景観百景」

中央地区サポート委員会に所属する川越第一中学校と富士見中学校の生徒が、川越の景色を自分のカメラで撮影し応募します。写真とともに、景観の説明を加えて展示しました。今年は、ウエスタ川越に加えて、新しい施設の「すくすく」にも展示しました。

どの作品も川越愛にあふれていました。

学校環境整備事業「落葉掃き」

１１月２９日（月）～１２月３日（金）の一週間、午前７時４５分～８時３０分に、川越第一中学校の校舎の周り等の落葉を掃きました。子どもサポート委員会の委員をはじめ先生方や生徒の皆さんも一緒に、大量の落葉を集めました。集めた落葉は、サポート委員長を通して肥料として活用してもらうことになっています。